



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



# かかわり合って命を輝かそう！

## 谷山教会で障がい者と捧げるミサ

6月12日(日)午後、谷山教会(頭島光神父主任司祭)で「障がい者とともに捧げるミサ」があった。ミサには、障がいを抱えながら生きる人とそうでない健常と云われる人たちがともに集い、お互いの命を輝かせるために学び、祈りをささげた。

この日ささげられた「障がい者とともに捧げるミサ」は、昨年12月から始まった「いつくしみの特別聖年」(2015年12月8日～2016年11月20日)中に記念するよう教皇フランシスコが定めたものの一つ。鹿児島教区では、カトリック鹿児島教区障がい者の会(パッションの会)が中心になって、企画し実現させた。



手話通訳もあったこの日のミサ

ミサで説教した頭島光神父は、障がい者が置かれてある社会の現状、またともに歩まなければならぬ健常者の中に障がい者に対する「差別」や「侮蔑」、「区別」がないかと問いかけた。その上で、障がいを持つ人を支えた人、ダウン症の子を授かった母親の「神からもらった命。だから命は輝く。でも一人で輝かすことはできない。障がい者も健常者も互いにかか

わり、交わってともに輝こう」とメッセージを送った。「四面に全文を掲載」ミサ

## 奉獻生活者の生き方を学習

### 教区修道女連盟が総会と研修会

鹿児島教区修道女連盟(竹口るみ子会長・シヨフアイユの幼きイエズス会)

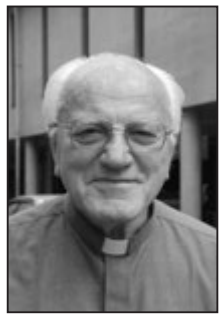


では、6月5日(日)教区本部で総会と研修会を開催した。

出席したのは本土地区(種子島を含む)で働く60人の修道女たちで、講師にはレデンブートル修道会日本準管区長瀬戸高志神父が招かれた。研修のテーマは「み顔を仰ぐ者とされて」

## 教区の恩人 フリチェル神父帰天

鹿児島での使命を終え、2013年にドイツのガルス本部修道院へと帰っていったW・フリチェル神父(レデンブートル会)が、6月11日(土)入院先のミュールドルフ病院で亡くなった。88歳だった。



フリチェル神父は1927年10月27日、チェコ共和国はモラビアの生まれ。1948年にレデンブートル会に入会、翌年、ガルス本

## 創立50周年と新施設の落成を祝う

### 龍郷町の「希望の星学園」

龍郷町にある福祉型障がい児入所施設「希望の星学園」(田下哲朗施設長)を運営する社会福祉法人クリスト・ロア会では、学園の創立50周年と障がい者支援施設「星窪きらり」の落成祝賀会を奄美市で開き、郡山司教も出席した。

働かれ、障害を持った子どもたちへ福音の種を蒔かれ、クリスト・ロア宣教師道女会に経営を委ねられた。この度の行政をはじめ関係者の方々、地域の方々

の支えの中で、50周年という節目の年に念願の成人棟(星窪きらり)落成を迎えることができた。シスター方の物心両面にわたっての献身的な働きに感謝するとともに福音の種がさらに豊かに育まれるように取り組んでいきたい」と感謝の言葉を述べた。

## 第4回子ども大会

(聖書学校) ご案内

神さまのいつくしみとは？

日程: 8月2日(火)～4日(木)  
会場: カリタスの園(宮崎市)  
対象: 小学生  
集合: 8月2日(火) 10時 ザビエル教会  
参加費: 2,000円と米1合  
準備: 宿泊用具、筆記用具、水着、タオルケット  
締切: 7月24日(日)  
申込先: 鴨池教会 泉 浩二神父  
TEL099(257)8097  
FAX099(297)4501

## 7月10日に典礼研修会

この度の記念を迎え、田下哲朗施設長は「今回の式典を通して、改めて神様の計画の不思議さを感じた。神様は、ゼロム神父様に

教区典礼委員会では、テーマを「主の降誕に關して」とする典礼研修会を7月10日(日)13時半～15時までカテドラル・ザビエル教会

## 教区評議会のテーマ

秋に開催の教区評議会のテーマが「神のいつくしみの特別聖年にあたり、信仰の伝達と班制度の生かし方」に決まった。

同評議会は11月3日(木)10時～15時(当初9月開催予定だったものを都合により変更)、鹿児島カテドラル・ザビエル教会で開催される。

## 短信

▼ザビエル教会で堅信式 5月29日(日)ザビエル教会で堅信式があり、11人がその恵みに浴した。



# 「平和のための脱核部会 大分集会」に参加して

正義と平和協議会 教区担当 山下 和実 (紫原教会)

Ⅰ脱核講演会・伊方原発視察  
5月14日、15日「平和のための脱核部会 大分集会」に参加した。「平和のための脱核部会」は、「日本正義と平和協議会」の中核グループである。

初日(14日)は、大分教区別府教会で武藤類子さん(福岡在住)と小坂正則さん(NPO法人九州・自然エネルギー推進ネットワーク代表、大分県在住)の講演を聞いた。武藤さんは、東京電力元幹部を訴えている「福島原発訴訟団」の団長を務めている。スライドを使用して、福島原発の現状が報告された。

5年が経過して、巨大な費用をかけられているが、復興は不十分である。放射線量が下がっていないにも拘らず、帰還が勧められ、放射線安全の宣伝が行われているように、時間の経過とともに、記憶が風化していくことを危惧された。

また、小坂さんは、熊本地震との関連で、伊方原発の危険性を具体的に述べられた。伊方原発は、中央構造線断層帯から5km離れたところに位置している。この距離は地震の発生により原発施設に影響を及ぼす恐れが十分にあるのである。

活断層は、固定したものでなく、新たに作り出されたり、移動したりするものなのである。また薩摩川内市の震度が報道されないことへの疑問も述べられた。

二日目は、早朝フェリーで四国に渡り、伊方原発(愛媛県)を視察した。約3時間の航路である。

伊方原発で事故が発生した時に、陸路で避難できない人々(約5千人)は、船で大分県に避難することになった。地震や津波発生後の混乱を想像すると、避難計画は非現実的もしくは思えない。結局一人ひとりの命は軽視され、犠牲者として見棄てられることになるのだから。

伊方原発のゲート前で、反対運動に取り組んでいる斎間淳子さん(八幡浜・原発から子どもたちを守る女の会代表)と八木さん(八幡浜在住の市民運動家)の話聞いた。伊方原発の1号機は、今年3月に廃炉が決定、2号機は停止中、3号機は再稼働を申請中で、今年7月に再稼働の可能性があるとのことである。

1988年には原発から1km離れた山中に米軍ヘリが激突して乗員7人が死亡したとのこと。伊方原発は、岩国基地と沖縄嘉手納・普天間を結ぶ線上にある。伊方町内の現状として、原発により潤っている人も多く、原発反対への圧力が強いそう。地元の間関係は修復するためには物を言わない方がよいという風潮がある。町名が分断され人間関係が歪んできているようだ。札束で人間の弱みにつけこむ構図は、他の原発立地でも見られる。その後、ゲート横の路上で、聖霊降臨の主日のミサをささげた。数百人の原子炉を前に、参加者の思いが一致し、派遣の意識を強く感じるミサとなった。ミサ後に、「脱核部会」を代表して、光延一郎神父(イエズス会)

が四国電力に再稼働中止の申し入れを行った。

## Ⅱ感想

今回の「平和のための脱核部会」大分集会に参加して、多くの実りがあった。韓国・福島・東京・広島・山口・福岡・鹿児島として地元の大分から20数人集まり、原発の問題を語り合い、信仰を分かち合うことができた。

(1)地震が続いているにもかかわらず原発は止められないのはなぜだろうか。4月中旬に熊本地震が発生し、余震が継続している中、九州内にある川内原発は再稼働を続けており、伊方原発は今年夏にも再稼働を予定している。原発立地県の住民から反対の声もあまり大きくはない。私たちは福島原発事故から何を学んだのだろうか。内心では不安を抱えながらも、声を上げることが躊躇しているのだろうか。福島住民の1人である武藤さんの講演を聞きながら、福島原発の現状を知らない(知らされていない)ことに恥ずかしさを感じた。福島原発事故から5年経過して、無関心・忘却へと流されている気がする。「復興」が叫ばれ「帰還政策」が実施される中、福島の人たちは元どおりの生活ができるのか、健康な生活が保障されるのか、子ども達は安心して学び育つことができるのだろうか。私たちは、絶えず福音の視点で考え行動する必要があるだろう。

(2)次に原発事故の責任について考えなければならぬ。講演者の一人武藤さんは、「福島原発訴訟団」でもある。国会の事故調査委員会が福島原発事故を人災であると指摘したにもかかわらず、誰も法的責任を取らないのはおかしいこと

に勇気をもって行動したのが、数千人の支援団である。私たちキリスト者は、倫理的責任について考え、その責任を問う必要があるだろう。人の命より経済成長を優先する国家の政策、他の生き物や自然環境を破壊している人間の行動、多重下請けである原発作業員の生命や人権の軽視など、私たちの「罪」は大きい。

(3)私たちは無力だろうか。今回の集会には、韓国から神父・修道士・信徒が参加した。また真言宗の僧侶さんも参加して意見交換ができた。

教会内で原発に反対しているのは「少数者」かもしれない。しかし、原発の問題を根源的に考えて、行動している人は教会外にたくさんいる。原発事故を契機にして、自分自身の生き方を考え直した人も少なくない。私たちはもともと教会の外に出て、人々と接するべきである。教皇フランシスコの呼びかけを真摯に受け止めて、行動すべきだろう。私たちに反対する側に立たない人々は私たちの仲間である。神さまから与えられたいのち(自分だけでなくすべてのいのち)を大切にすること、イエスが自分の生き様として弱い立場に立つて神さまの使命を全うしたこと、そのことを信じるキリスト者は信仰を告白し行動する責任があると思う。

(4)最後に怒りの大切さである。福島原発事故、川内原発再稼働、沖縄辺野古への基地移転など人間のいのちと尊厳を軽視する理不尽なことが多すぎる。情報を知らされず、支配者に文句を言わず、服従することは民主主義から遠い。私たちはもともと怒るべきではないだろうか。イエスは、このような状況を見たらどのように行動するだろうか。「人間のいのちと尊厳に関する問題に沈黙できない」というカトリック教会の立場を鮮明にする必要がある。



## 元氣を出して

榕城小学校 四年 道下文哉

榕城小学校あこうずもう大会、四年生の部決勝。まわしをつかんで前に前に前に。今日は、お父さんもお母さんも応援にきてくれた。土俵ぎわ、功生君のかたにおでこをおしつけて、まるで山になったみたいにおした。行司の軍配がぼくをさした。

「やったあ。すごい。文哉。」  
お母さんの声が聞こえた。初優勝だ。表しよう式が楽しんだ。早く賞状がほしいと思った。賞状をもらって、すぐお父さんに見せ

「よかったね。」  
と、ここにこして笑ってくれた。そう、これだ。この喜んでい顔を見たかったんだ。

ぼくは、身長百二十九センチ、体重五十一キロ。ソフボールではファーストを守っている。かたからむねにがつちり筋肉がついてきた。お母さんの作るオムライスが大好きだ。お父さんとお母さんが考えてくれたしこ名は「文ノ山」どっしり力強い感じで気に入っている。一年のころから、

学校のすもう大会に参加してきたけれど、毎年決勝戦で投げ飛ばされて負けた。でも、今年は絶対に優勝するために参加したのだ。「なんか、筋肉に力が入らない。」

とお父さんが言い出したのは、ぼくが三年生の時だった。鹿児島市内の病院まで行って、とてもむずかしい病気で分かった。しばらくは仕事を休んでいた。でも、今はずっと家にいる。家の中ではかべによりかかりながら歩いているけれど、外出するときは車いすが必要だ。

「お父さん、ちゃんと薬のんだ。」  
と、たしかめるのがぼくの役目になった。ぼくたちの家族は、お母さん、お兄さん、お姉さんみんな、お父さんを支えていきたいと考えている。なにか、お父さんが元気がでるようなことをしたい。よし、すも

り組みが取り上げられている。お父さんは、ぼくの前でつらそうな様子を見せた。弱音を吐いたりしたこととは一度もない。でも、とさどささびしうに見えている。病気の進行をおさえるために、毎日たくさんのお薬を飲まなければならぬ。四年生になつてから、お父さんに薬のふくろを渡して

「お父さん、ちゃんと薬のんだ。」  
と、たしかめるのがぼくの役目になった。ぼくたちの家族は、お母さん、お兄さん、お姉さんみんな、お父さんを支えていきたいと考えている。なにか、お父さんが元気がでるようなことをしたい。よし、すも

う大会で優勝するのを見せよう。  
今年はずもうの練習のときから、自分でめあてを決めてせいっぱいがんばった。立ちあいで、こしを低くしておでこから当たることにすること。相手のまわしをつかんで前に出ること。ぜったいに途中であきらめないこと。決勝戦でも、練習通りの取り組みができた。あこうずもう大会で優勝。その後、西之表市わんぱくすもう大会でも優勝した。賞状と金メダルは家にかざってある。さあ、次はどうやってお父さんを喜ばせて、元氣を出してもらおうかな。  
(種子島教会)

**キッペス神父の黙想会**  
他者にイエズスを見る  
7月16日18時~18日16時30分  
場所：マリア山荘  
参加費：15,000円  
申込先：福沢智子 TEL.090-2083-9223  
メール：fuku-h@ml.satsuma.ne.jp



# 教区の司祭たちの役職

春の人事異動に伴い、教区で働く司祭たち(一部、助祭、信徒を含む)の担当に若干の変更があった。発表された担当は以下の通り。(敬称略)

**◆教区長** 郡山健次郎  
**◆総代理** 泉 浩二  
**◆地区長** レデンプロトル  
会地区Ⅱ頭島 光、奄美  
大島地区Ⅱ永山幸弘

**司祭評議会** 郡山健次郎  
(会長)、泉 浩二(副会長)  
長、末吉卓也(事務局  
長) 評議員 頭島 光、  
萩原義幸(以上、レデン  
プロトル会)、小隈憲士、  
寝占敦之、アン(以上、  
司教任命)、サンタマリ  
ア(ザベリオ会)、内野  
洋平(コンベンツアル会)

**教区顧問** 頭島 光、泉  
浩二、竹山 昭、小隈憲  
士、(書記 末吉卓也)

**教区評議会** 会長Ⅱ教長、  
副会長Ⅱ総代理、評議員  
書記長、会計部長(以上、  
職務上)、各教会の主任

司祭と信徒の代表1人  
**経済問題評議会** 会長Ⅱ教  
区長、副会長Ⅱ総代理、  
評議員 小隈憲士、頭島  
光(以上、教区顧問)、  
永山幸弘(奄美地区長)、  
丸野六雄(教区司祭)、  
川口 茂(終身助祭)、  
森山茂知、中野三郎(以  
上、信徒委員)

**本部事務局**(宗教法人部・  
学校法人部)  
**宗教法人部** 会計部 泉  
浩二(部長)、山下真二  
(信徒) 広報部 泉  
浩二(部長)、山下真二  
(次長・編集長・信徒)

**学校法人部** 聖マリア学  
園 深 岩雄(信徒)

**「宗教法人カトリック鹿兒  
島司教区」責任役員会**  
代表役員 郡山健次郎、  
責任役員 田原 章、竹

山 昭、小隈憲士、(書  
記 末吉卓也)  
**教区裁判所** 法務代理Ⅱハ  
ンマ、裁判官Ⅱ永山幸弘  
の保護官・検閲者Ⅱ竹  
山 昭、公証官Ⅱ末吉卓  
也

**その他の委員会・担当・顧  
問**

▼**委員会**  
(1)教区典礼委員会 末吉卓  
也、大松正弘  
(2)教区墓地委員会 末吉卓  
也、山下真二(信徒)

(3)終身助祭委員会 竹山  
昭、泉 浩二、末吉卓也  
▼**担当司祭・助祭**

①青少年司牧 泉 浩二、  
末吉卓也、萩原義幸  
②カリタス・ジャパン 川  
口 茂(終身助祭)

③エキユメニズム 鈴木康  
由  
④正義と平和協議会 山下  
和美(信徒)  
⑤滞日外国人 ベルナルデ  
イーノ、貴島丈弥

⑧宣教奉仕者養成 永山幸  
弘  
⑨諸宗教懇話会 末吉卓  
也、小隈憲士  
⑩愛の泉 久保俊弘(終身  
助祭)

⑪教区巡礼委員会 アン  
トニオ、徳永善博(信徒)

⑫難民移動移住者 ベルナ  
ルディーノ  
⑬ベトナム司牧召命担当  
テイエン

⑭東日本大震災担当 末吉  
卓也  
⑮ザビエル祭 アン、丸野  
六雄  
⑯日本カトリック障害者連  
絡協議会 梶尾泰英、頭  
島 光

⑰部落差別 鈴木康由  
▼**顧問司祭**  
①レジオ・マリエ 頭島  
光(鹿兒島コミチウム)、  
松永正男(名瀬クリア)

②鹿兒島連合壮年会 丸野  
六雄  
③奄美連合壮年会 永山幸  
弘  
④看護協会 丸野六雄  
⑤医師会 ムイベルガ  
⑥教区教師の会 竹山 昭

**+KABAYAN SEKSYON+**  
**Ang Dukha: Isang Kristiyanong  
Pananaw**  
Sino ang mga "dukha" na kailangan paglaanan ng ating paglilingkod? Pakinggan natin ang mga Obispong Pilipino sa kanilang dokumento na "To Bring Glad Tidings to the Poor (Lk 4:18)."  
"Ang dukha ay hindi lamang bilang sa isang ulat statistiko. Ang dukha ay hindi lamang mga walang pinag-aralan, mga madusing, mga walang muwang, mga walang damit, mga ginagamit, mga ipinupuslit, at ang mga maysakit na mapanglaw na tumitingin sa ating mga mata na humihingi ng pagkilala. Sila yaong tinutukoy ni Hesus nang sabihin niyang, "Anuman ang gawin ninyo sa isa sa maliit na ito na mga kapatid ko, sa akin ninyo ginawa"(Mt 25:40)."  
"Ginawa ni Hesus ang sarili niya na kabilang sa mga dukha. Mula sa kanyang krus, sumusulyap si Hesus sa ating mga mata at hinihingi niya ang ating mga puso ng may pag-ibig. Ang kanyang pag-ibig sa atin ang paraan para matanggap natin ang ating mga personal na pagkakamali sa diwa ng sama-samang pagiging mga sugatan. Ang pag-ibig niya ang tahimik na nagsasabi sa ating: "Humayo, at magpagaling." Kailangan natin palaging itanong: "Paano natin minamahal ang ating kapwa? Paano natin minamahal lalo na ang mga dukha, ang mga dukha ng Panginoon?..."  
Sa mga dukha, utang natin ang pag-ibig gaya ng pag-ibig ng Diyos na unang nagmahal sa atin."  
Ipinakilala ng Panginoon Hesus ang kanyang pagmamahal sa atin ng tinanggap niya ang pagpapakasakit at pagkamatay sa Krus para tayo makaligtas sa ating mga pagkakasala. At higit sa lahat ipinakita niya sa atin ang kanyang dakilang pagmamahala sa mga dukha, sa mga taong mahihina, walang lakas, mga inaalipin may mga kapansanan, mga may sakit at iba't ibang may karamdaman. Ipinadama niya sa atin ang pagmamahal ng Ama na nasa Langit, dahil isa rin tayong mga dukha na minamahal niya ng walang kondisyon.  
Tayo rin dapat na magmahalan na walang kondisyon.  
**Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr. Dino Orolfo)**

会と催し (7月)

1日(金) 福者ベトロ岐部司祭と一八七殉教者  
年間第十四主日  
▼山口重義神父、頭島光神父、松森孝郎神父霊名  
(聖トマ)

3日(日) 鹿屋教会堅信式

4日(月) 奄美カトリック女性連盟総会・大等利教会・10時  
▼WYD準備会・教区本部・5日まで

6日(水) 鹿兒島市主任司祭会・教区本部・15時  
▼竹山昭神父叙階記念(一九六七年)

9日(土) 竹山昭神父叙階記念(一九六七年)  
▼いつくしみの集い・ザビエル教会・14時  
年間第十五主日

10日(日) 聖ヨセフ祭・瀬留教会  
▼ブイジュ祭・瀬留教会

11日(月) 坂谷豊光神父命日(二〇〇六年)

14日(木) 村田源次神父命日(二〇〇七年)

17日(日) 年間第十六主日  
▼谷山教会堅信式・9時

19日(火) 教区巡礼委員会・19時  
▼ユゼビウス神父命日(一九七九年)

22日(金) 木村敏彦神父命日(二〇〇八年)

23日(土) ティエン神父叙階記念(二〇〇六年)

24日(日) 年間第十七主日  
▼オリブの会・教区本部・14時

25日(月) 聖ヤコブ使徒  
▼カトリック幼稚園研修会・26日

30日(土) 福崎英雄神父霊名  
▼久保芳一神父霊名(聖ルフィーノ)

31日(日) 年間第十八主日

## 司教執務室便り

### 恩人を偲んで

去る5月30日、鹿兒島教区の恩人ボニファチオ司教様が急逝された。急だったので葬儀には1人だけの参列だったが、教区の皆さんには心に留めて置いていただきたい方なので司教様のことを少し書いてみたい。その前に、インチョン教区と鹿兒島教区の関わりについて少し触れてみたい。

インチョン教区といえば鹿兒島の皆さんには馴染みがあるはずだ。そう、鹿兒島教区の韓国籍の司祭と助祭はいずれもインチョン教区立の大神学校で学んだ。現在も1人が学んでいる。かつて、そのうちの1人が、「私たちは日本の教区司祭になりたい。誰か司教様を

紹介して欲しい」とネットに書き込んだ。たまたまそれを読んだ大分教区の韓国人神学生を介して鹿兒島教区に伝えられたという経緯がある。当初は4人。「嬉しい話だが4人は多いと思う」と正直な感想を司祭団に話した。「まあ、みんながなるというわけではないでしょうから良いんじゃないですか」ということになった。

「母国語での勉強がふさわしい」ということになり、早速、七つもあるという神学校に打診してみた。その時、唯一、「OK」の返事をもたらったのがインチョン教区だった。ちなみに、あとの6教区の神学校は定員オーバーと聞いて韓国教会の底力みたいなものに驚いたものだ。その後、司教様直々の紹介で1人が加わり5人となった。こうして、鹿兒島教区は降って湧いた

ような思いがけない司祭召命の恵みに満たされることになった。そういう意味で、ボニファチオ司教様は鹿兒島教区の恩人。

照れたような笑顔が印象的な司教様だったが、広く鷹揚な性格の持ち主だったという。そういえば、北朝鮮が解放されたときに備えて女子修道会を創立されと話しておられた。「まだ15人ほどだけだね」といつもの笑顔で話されたことがあつた。信者数50万人を誇るインチョン教区には大きな病院が二つもある。そこに信者のお医者さんを送り込むのが長年の夢だった。3年ほど前だったか、「医学部のある国立大学を買収しました」とぼろつと話された時は我が耳を疑ったものだ。

一昨年のアジアニュースデーで渡韓したとき、神学生宅に宿をと

った。「今夜は司教様をお迎えしてパーティーをします」というので緊張と興味のうちにその時を待った。それは、床に直に座る韓国式の宴会で、男性はあぐら、女性は片ひざを立てて座る伝統的なものだった。後で聞いたことだが、「司教館にお迎えすべきだったのに申し訳ない。せめて歓迎の宴を」と司教様主催のパーティーだったことが分かって恐縮したものだ。日韓司教交流会で会うときでも兄弟のような親しみを感じたものだ。2時間の散歩とともに捧げるロザリオは四つの神秘全部。毎日欠かさずこの祈りの人でもあった。

来年の命日祭には5人とともに墓参り感謝のミサを捧げるお礼参りの巡礼をしたいと思っ



**祈りの意向**  
【ノベナ】ワールドユースデー(11日、20日)  
【祈祷の使徒会】世界共通・先住民族  
宣教・ラテンアメリカとカリブ諸島  
日本の教会・列聖運動の推進



# 障がい者と共に捧げるミサでの頭島神父の説教 共にかかわり合って命を輝かせよう

皆さん、今日というこの日を「病者と障がい者の聖年」として祝うよう、「いつくしみの特別聖年」にあつて教皇様が定めてくださった。カトリックの総本山、バチカン大聖堂でも今日、障がい者のためごミサが捧げられることになっていきます。私たちがこれに合わせて、「障がい者と共に捧げるミサ」を捧げます。このように、たくさん障がい者の方々が集まることのできたことを、心から感謝します。ありがとうございます。

さて、今年、教会が主催する「いつくしみの特別聖年」は昨年12月8日から始まり、今年の11月末まで続きます。今日は特別な日です。なぜなら「神のいつくしみの眼差し」がすべての病人と障がい者たちの方々のために向けられたことを教会が宣言し祝うからです。現代社会において、多くの障がい者たちは健常者と同じ権利を持ち、社会と共に働き生きる喜びが与えられています。しかし、このことは現実には十分に理解されているとは言えないでしょうか。様々なところで就職できなかったり、差別を受けたりはしてないでしょうか。差別があるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

人のためにあるのです。「神の業がこの人の内に現れるために」と語られたイエスの言葉は、その意味でまったく嘘偽りのない本當の言葉です。障がい者を受け止めてくれる人がいる。そんな幸せなことが他にあるでしょうか。ダウン症の子を授かった一人の若い母親は「どうして自分の子がこんな病になつたのか。どうして健康に産んであげられなかったのか」と自分を恨んだそうです。このように、人間は誰しもが不幸な現実に見舞われると、その原因と結果を思い、恨み始めます。ところがこのお母さん、少しずつ我が子の中に命の輝きを見出していきます。それはダウン症を持つ人に特徴的に見られることで、穏やかな気質、静かな微笑み、無垢な優しさ、平和的な心の温かさがあるというのです。これらの命の輝きを共に生きることでできる喜びを、このお

母さんは見つけたのです。今では「生まれてきてくれてありがとう」と感謝しています。皆さん、障がいとは共に歩む人がいて、また命の輝きを共有してくれる友がいて、初めて歩き始めるようです。神がお与えになつた命がどんな形であつても、またどんな状況であつても、一人では生きられませんが、問題は障がいがあるか否かではなく、障がいがあつてもそこにかげがえのない命があつて、この命と共に歩む友がいるかいないかということです。父の財産をすべて使い果たし、再び帰ってきた放蕩息子がいました。父は愚かな弟を叱りもせず、逆に受け止め、高価な指をはめ、着物を着せ、牛を屠つて祝いました。ところがこれを見て、怒り心頭に発したのはいきま。彼は父の言いつけを守り、錠を守つて忠実に真面目に働いて仕事し、お父さんに仕えてきました。遊び呆けて父の財産を無駄使いして戻ってきたこの放蕩息子を家に入れて祝うとは何事かと怒ります。そんな兄に、父なる神

様は次のように言われました。「いいか、よく聞きなさい。お前はいつだって、私のそばにいたではないか。私のものは全部お前のものだ。考えてもみなさい。あれはお前の弟なのだ。死んだと思つて諦めていたのだが、無事に帰つてきたのだ。いなくなつていたのが見つかったのだから、お祝いするのは当たり前ではないか」父なる神のいつくしみと愛は永遠で、私たちの愚かで小さな粹をいとも簡単に飛び越えて偉大です。小さなことで、また些細なことでもいがみ合い、憎しみ合う世界はもう終わりにしましょう。差別、区別、比較に何の意味もありません。私たちは皆同じ神からの命を頂いた者です。だからこの命、輝くのです。でも、一人で輝かすことができません。いつも誰かの助けが必要です。誰かの愛が必要なのです。かわり、交わりましょう。何も恐れることはありません。同じ神の愛の中に、いつくしみの中に私たちは生きています。私から。神に感謝。

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私



頭島神父

皆さん、今日というこの日を「病者と障がい者の聖年」として祝うよう、「いつくしみの特別聖年」にあつて教皇様が定めてくださった。カトリックの総本山、バチカン大聖堂でも今日、障がい者のためごミサが捧げられることになっていきます。私たちがこれに合わせて、「障がい者と共に捧げるミサ」を捧げます。このように、たくさん障がい者の方々が集まることのできたことを、心から感謝します。ありがとうございます。

さて、今年、教会が主催する「いつくしみの特別聖年」は昨年12月8日から始まり、今年の11月末まで続きます。今日は特別な日です。なぜなら「神のいつくしみの眼差し」がすべての病人と障がい者たちの方々のために向けられたことを教会が宣言し祝うからです。現代社会において、多くの障がい者たちは健常者と同じ権利を持ち、社会と共に働き生きる喜びが与えられています。しかし、このことは現実には十分に理解されているとは言えないでしょうか。様々なところで就職できなかったり、差別を受けたりはしてないでしょうか。差別があるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

人のためにあるのです。「神の業がこの人の内に現れるために」と語られたイエスの言葉は、その意味でまったく嘘偽りのない本當の言葉です。障がい者を受け止めてくれる人がいる。そんな幸せなことが他にあるでしょうか。ダウン症の子を授かった一人の若い母親は「どうして自分の子がこんな病になつたのか。どうして健康に産んであげられなかったのか」と自分を恨んだそうです。このように、人間は誰しもが不幸な現実に見舞われると、その原因と結果を思い、恨み始めます。ところがこのお母さん、少しずつ我が子の中に命の輝きを見出していきます。それはダウン症を持つ人に特徴的に見られることで、穏やかな気質、静かな微笑み、無垢な優しさ、平和的な心の温かさがあるというのです。これらの命の輝きを共に生きることでできる喜びを、このお

母さんは見つけたのです。今では「生まれてきてくれてありがとう」と感謝しています。皆さん、障がいとは共に歩む人がいて、また命の輝きを共有してくれる友がいて、初めて歩き始めるようです。神がお与えになつた命がどんな形であつても、またどんな状況であつても、一人では生きられませんが、問題は障がいがあるか否かではなく、障がいがあつてもそこにかげがえのない命があつて、この命と共に歩む友がいるかいないかということです。父の財産をすべて使い果たし、再び帰ってきた放蕩息子がいました。父は愚かな弟を叱りもせず、逆に受け止め、高価な指をはめ、着物を着せ、牛を屠つて祝いました。ところがこれを見て、怒り心頭に発したのはいきま。彼は父の言いつけを守り、錠を守つて忠実に真面目に働いて仕事し、お父さんに仕えてきました。遊び呆けて父の財産を無駄使いして戻ってきたこの放蕩息子を家に入れて祝うとは何事かと怒ります。そんな兄に、父なる神

様は次のように言われました。「いいか、よく聞きなさい。お前はいつだって、私のそばにいたではないか。私のものは全部お前のものだ。考えてもみなさい。あれはお前の弟なのだ。死んだと思つて諦めていたのだが、無事に帰つてきたのだ。いなくなつていたのが見つかったのだから、お祝いするのは当たり前ではないか」父なる神のいつくしみと愛は永遠で、私たちの愚かで小さな粹をいとも簡単に飛び越えて偉大です。小さなことで、また些細なことでもいがみ合い、憎しみ合う世界はもう終わりにしましょう。差別、区別、比較に何の意味もありません。私たちは皆同じ神からの命を頂いた者です。だからこの命、輝くのです。でも、一人で輝かすことができません。いつも誰かの助けが必要です。誰かの愛が必要なのです。かわり、交わりましょう。何も恐れることはありません。同じ神の愛の中に、いつくしみの中に私たちは生きています。私から。神に感謝。

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

「かわりもまた交わりもいない」という人は確かに自分一人でもできて、やっつけているのですから、他人の世話など必要ないのかもしれない。しかし、とつて障がいを持つ人は必要なのです。あなたのような他人を必要としない人が、友達になつてくれるのを待っているからです。障がいがあるがゆえに差別や侮蔑、そして区別が私

## 鈴木神父のやさしい言葉

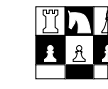
### 姦通の女

今回の「姦通の女」をイエス様の最後の言葉に着目して読み解いてみましょう(8・11)。イエス様の「もう罪を犯してはならない」という命令形は文法的に継続の禁止を意味します。そうなるこの女は姦通の罪を犯していたことになり、罪を犯した女は姦通の罪を犯した女に「わたしもあなたを罪に定めなさい」という言葉は、律法に従つて裁ける者は神様以外にはない、ということの断言とも考えられます。つまり、律法が人を裁く根拠に貶めてしまつて、このお

イエス様は批判しているのです。また、「もう罪を犯してはならない」という言葉は神様の愛に基づく赦しの宣言であり、律法の背景

いつも何らかの宣言をされることに気が付きます(5・17、7・24、10・37、38)。また、イエス様ご自身が律法によつて最終的に裁かれる

ヨハネ福音書を貫く姿勢からも、この女は有罪であつたとも考えられます。福音書の記述には旧約の批判的継承が見られることがありますが、このことは、仮に「スザンヌ」が下敷きになつていて、寧ろ「違い」が強調されているとも考えられます。福音書を勝手に解釈することは危険ですが、このように解釈の可能性を考えると、これは大切なこと



**2016 Canossa Youth Day in 九州**

日時：10月29日(土) 10時～30日(日) 16時

会場：「福岡黙想の家」(〒811-4155 福岡県宗像市名残 1056-1 <http://fmokuso.com/>)

講師：暮林 響神父様(神言会)

対象：青年男女(18歳～35歳)

参加費：5,000円

申込先：〒156-0045 東京都世田谷区桜上水2-5-1 カノッサ修道女会  
Tel.03-3329-3364 FAX 03-3302-1297  
E-mail: canoyouth@gmail.com  
<https://www.facebook.com/canossajp/>

申込〆切：10月15日

**文芸**

俳句 吉野教会 徳永ノブ子  
逝きし夫五年目のけふは 聖五月  
打水し人と話さぬひと日あり

短歌 始良教会 川口 節子  
さつき晴れ薩摩の丘のアーヴェマリア  
沈黙の季過ぎ潤うアジサイの群れ

国分教会 政ノブ子  
傘立に杖も混じりて朝の

ミサ 聖堂に楚々として咲く百合の花

始良教会 川口 節子  
救霊を御旨とし給うキリストよ薬害に泣く人々を主よ

鹿兒島純心 川上 和  
ガリラヤの荒野に座して待つ民に五つのパンは不思議な数となり  
今春も庭に育てし赤いバラ御母に捧げむととげ落とし